

2025 年 6 月 18 日（研究機関長許可日）

「憩室出血クリニカルパスにおけるバリエーション分析と新規パス作成の必要性に関する検討」 へご協力をお願い

一対象期間中に北7階病棟に入院され大腸憩室出血の治療を受けた患者さんへー
【通常診療情報の調査研究への使用のお願い】

高崎総合医療センター北7階病棟では、以下の臨床研究を行っております。
内容をご確認ください。

（1）研究の概要

【研究の背景】

憩室出血（けいしつしゅっけつ）は、特に高齢の方に多く見られる腸からの出血の一つです。この出血をうまく止めることや、再び出血しないようにすることがとても大切です。

当院では、治療や看護の流れをあらかじめ決めておく「クリニカルパス」という仕組みを、2020 年から憩室出血の患者さんに使っています。導入から 5 年が経ち、このパスが実際にうまく使われているかどうかを見直す時期になりました。

【研究の意義】

クリニカルパスが実際の治療の流れと合っているかを調べることで、より良い医療につなげることができます。特に、急に内視鏡検査が必要になった場合や、再び出血してしまった場合など、今のパスでは対応が難しいケースもあります。今回の調査を通じて、そうしたケースにも対応できるような新しいパスを作ることができれば、患者さんにとってより安心で安全な治療が提供できると考えています。

【研究の目的】

この調査の目的は、今使っている憩室出血のパスが実際の治療にどれだけ合っているかを確認し、必要があれば内容を見直したり、新しく緊急対応用のパスを作ったりすることです。

そのため、対象期間中に北7階病棟に入院され大腸憩室出血の治療を受けた患者さんのカルテ等の治療データを使用させていただきます。

（2）研究の方法

① この調査研究は高崎総合医療センター倫理委員会で審査され、病院長の承認を受けて行われます。

研究期間：研究機関長許可日から 2025 年 11 月 30 日まで

（調査対象期間 2024 年 7 月 1 日から 2024 年 11 月 30 日）

② 2024 年 7 月から 11 月までの間に、憩室出血のパスを使って治療を行った患者さんを対象に、診療記録をもとにして、下記の項目について振り返って分析を行います。

- 入院期間
- 注射薬の使用状況（特に鎮静剤）
- 実施された検査内容
- アウトカムの達成状況
- バリエーション（逸脱事例）の内容

分析結果をもとに、既存パスの改訂および新規パス作成の検討を行います。

作成日：2025年5月19日（第1.0版）

- ③ 通常の診療で得られたデータを使用する研究であり、新たな検査や費用が生じることはなく、また、データを使用させていただいた患者さんへの謝礼等ありません。
- ④ 使用するデータは個人が特定されないよう匿名化を行い、個人情報に関しては厳重に管理します。
- ⑤ 調査研究の成果は、学会や科学専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人を特定するような情報が公表されることはなく、個人情報は守られます。
- ⑥ 調査研究の結果、特許などの知的財産が生じる可能性もございますが、その権利は高崎総合医療センターに帰属し、あなたには帰属しません。
- ⑦ この調査研究は、看護部の研究費を使用します。また特定の企業・団体等からの支援を受けて行われるものではなく、利益相反状態にはありません。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、今回のデータ使用について同意をいただけない場合には、いつでも構いませんので、お手数ですが下記の連絡先まで連絡ください。その場合でも同意の有無が今後の治療などに影響することはございません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

高崎総合医療センター 北7階病棟 看護師

研究責任者：窪田 妃果莉

T E L : 027-322-5901(代) F A X : 027-327-1826(代)